

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名：(公財)福島県国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業
事業の目的	<p>広い県土を有する本県では、外国出身者が県内各地に散在して暮らしていることから、外国出身者が、日常生活をする上で必要かつすぐに使える実用的な日本語能力を習得できるようにするためには、県内各地において日本語が学べる環境づくりが必要である。</p> <p>そこで、平成28年度、平成29年度と文化庁からの委託を受け、学習者の実態や要望に合わせた独自の教案を作り、県内各地の日本語教室や外国出身者コミュニティと協働してのべ30か所にあつた日本語講座を実施するとともに、日本語ボランティアを対象としたスキルアップ研修会を実施した。また、日本語教室空白地域においては、日本語教室開設に向けたトライアル日本語講習会を開催し、さらには、これらの事業の成果を広く県民と共有するためにセミナーを開催した。</p> <p>その結果、日本語講座に参加したほとんどの外国出身者は、生活していく上で必要となる日本語の学習を継続して行う必要性を、一方、研修会に参加した日本語ボランティアは、日本語教室活動に関するスキル及びモチベーションの向上を認識した。また、日本語教室空白地域においては、講習会を契機に平成28年度には伊達市に「伊達ニティ」が、平成29年度には白河市に「フロムココ白河」という団体が新たに立ち上がり、それぞれが日本語教室を開設した。さらに平成28年度はセミナーの開催を通じて、県民と事業成果について共有することができ、平成29年度においても、この2月に同様のセミナーを開催する。</p> <p>また、特に平成29年度の外国出身者コミュニティを対象とした講座においては、地域の様々な団体等と連携し、実技講師及びその補助者として地域住民が直に日本語講座に携わる機会を提供したことにより、参加した地域住民が外国出身者に対する日本語教育の重要性を実感し、地域住民自身が外国出身者とやさしい日本語でコミュニケーションを図ろうとする意識変容に繋がった。</p> <p>しかしながら、本県全体から見れば、これらの成果は限定的で県全体には波及しているとは言えない状況にあることから、当事業の最終年度となる平成30年度においては、平成28年度及び平成29年度の事業で蓄積したノウハウを生かし、新たな地域において新たな団体と連携し、同様の取組を引き続き実施することで、福島県全体における「生活者としての外国人」に対する日本語教育体制のさらなる充実・強化を図ることとする。</p>
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	<p>本県に暮らす約1.2万人の外国出身者は、59市町村のほとんどに散在して居住しているが、40市町村には日本語教室がない。その市町村の中には、外国出身者が全人口に占める割合が比較的高いところもあり、日本語の学習を希望する者は、近隣の自治体の日本語教室に通っている。</p> <p>県内で活動している日本語教室は、平成28年度及び平成29年度の日本語教室空白地域において実施した取組が契機となり、新たに2教室が加わり、平成30年9月現在、59市町村のうち20市町村に32教室となった。そのうち13教室については市または町の国際交流協会が運営し、残りの19教室は日本語ボランティアにより運営されている。その日本語ボランティア数は減少傾向、学習者数は増加傾向にある。</p> <p>なお、日本語教育を実施している日本語学校は3か所あり、平成29年5月現在、日本での進学や就職を目指す約300人の外国出身者県民等が学習している。</p> <p>また、県内の日本語教室では、運営に携わる日本語ボランティアの年齢層が高く、新規ボランティアの参加が少ないことから、メンバーの固定化と減少、さらにはスキルやモチベーションの低下が課題として浮き彫りになっている。また、他の教室と互いに情報交換したり、県外の先進的な事例を学び指導や教室運営の参考にするため連携する機会も限られており、継続して、日本語ボランティアの連携強化とスキルアップを行う場が必要である。</p> <p>県内には、中国、フィリピン、インドネシア、ベトナム等の外国出身者コミュニティが存在しており、メンバー同士の交流や情報交換を行うだけでなく、地域社会に向けて自国の文化の積極的な発信を行っているところもある。しかしながら、そうした外国出身者コミュニティが、日本語学習の場となっていることは少なく、同国出身者同士のコミュニケーションにより生活に必要な情報を得ているため、かえって日本語能力がなかなか向上しない人も一部に存在する。</p>
本事業の対象とする空白地域の状況	<p>西郷村は、平成28年12月末において在留外国人数は215人であり、総人口に占める在留外国人割合は、1.05%と福島県平均の0.62%の約2倍の数値となっている。また、その国籍を見ると、フィリピン、中国、ネパールで全体の7割を占め、その国籍総数は22か国に及ぶ。</p> <p>西郷村内には、東北自動車道白河IC及び東北新幹線新白河駅があり、首都圏からのアクセスが良く、最先端の技術を持った大手企業の工場が立地しているなど、今後、技術者や技能実習生などを中心に外国出身者数も年々増えていくと予想される。</p> <p>このような状況の中、平成30年8月に当事業取組3の結果、新しい地域日本語教室「にしごう地球広場」が開設され、現在近隣の市町村からも学習者が通い、福島県県南地域に住む外国出身者の日本語学習の機会が増えた。</p>
事業内容の概要	<p>取組1 既存の日本語教室における日本語講座及び日本語ボランティアスキルアップ研修会 おもに平成28年度及び平成29年度で当事業を実施していない3つを含む5つの日本語教室において、先進的な指導を行う指導者のもと、学習者のニーズに合った内容の生活に役立つ日本語を学習する場を提供した。 また、併せて先進的な指導を行う指導者による座学及びワークショップと日本語講座での実践を合わせた日本語ボランティア研修会を行うことにより、日本語ボランティアのスキル及びモチベーションが向上した。</p> <p>取組2 外国出身者コミュニティを対象とした日本語講座 平成28年度及び平成29年度で当事業を実施していない6つを含む11の外国出身者コミュニティにおいて、必要に応じて学習のテーマに通じた実技講師とその補助者及びボランティアを地域から招き、生活に役立つ実用的な日本語を実技等を交えて学習する機会を提供し、日本語学習の成果を実感してもらい、日本語学習を継続的にしていないコミュニティメンバーの日本語学習の意欲向上を図った。 また、当講座において、地域の様々な団体等と連携し、実技講師とその補助者及びボランティアとして地域住民が外国出身者の日本語教育に関わる機会を提供した。地域住民に対し外国出身者に対する日本語教育の重要性を認識してもらったとともに、日本語で対話できたという実感から外国出身者とコミュニケーションをとる際の地域住民の言葉の壁を低くすることができた。</p> <p>取組3 新規日本語教室開設に向けたトライアル日本語講座及び日本語ボランティア養成講座 日本語教育空白地域である西郷村において、日本語を学ぶ機会が少ない外国出身者に対し、生活に役立つ日本語を学ぶ場を提供し、日本語学習への意欲を喚起した。 また、併せて座学と日本語講座での実践を合わせた日本語ボランティア養成講座を行い、参加者のスキル及びモチベーションが向上した。その結果、新しい地域日本語教室「にしごう地球ひろば」が開設された。</p> <p>取組4 日本語教育活動成果発表セミナー 平成28年度から平成30年度までの3年間の取組の総括として、米勢治子氏による「生活者としての外国人の日本語教育」に関する基調講演、3年間の事業の成果報告、「やさしい日本語ワークショップ」を実施し、県内の日本語教育に携わっているボランティアや一般県民等と取組の成果を共有し、福島県全体における「生活者としての外国人」に対する日本語教育体制の充実・強化に繋がった。</p>
事業の実施期間	平成30年5月11日～平成31年3月20日（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	井本 亮	福島大学経済経営学類 教授
2	大寺 正晃	須賀川多文化共生ネット 代表
3	何 敏	福島大学国際交流センター 副センター長
4	米勢 治子	東海日本語ネットワーク 副代表
5	幕田 順子	(公財)福島県国際交流協会 主任主査

第2回運営委員会



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年5月16日 (水) 13:30~15:30	2時間	(公財)福島県国際交流協会	井本亮、大寺正晃、何敏、米勢治子、幕田順子	1. 取組1~取組4についての検討
2	平成31年2月14日 (木) 13:30~15:30	2時間	(公財)福島県国際交流協会	井本亮、大寺正晃、何敏、米勢治子、幕田順子	1. 取組1~取組4の成果と課題の検討 2. 平成30年度事業全体の成果と課題の取りまとめと評価 3. 3年間の事業の成果と課題の取りまとめと評価

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<p>○日本語教室（会津若松市国際交流協会、須賀川多文化共生ネット、田村市国際交流協会、外国人支援ボランティアグループふれんず、伊達市国際交流協会日本語教室伊達ニティ） 内容：取組1において、共同で、事業の企画、調整、準備、広報、当日の運営等を行った。 成果：連携先が主体的に事業に取り組むことを通じて、「生活者としての外国人のための日本語教育」への理解が深まった。</p> <p>○外国出身者コミュニティ（ベトナム出身者コミュニティ2団体、タイ出身者コミュニティ2団体、フィリピン出身者コミュニティ3団体、中国出身者コミュニティ、インドネシア出身者コミュニティ、多国籍コミュニティ2団体） 内容：取組2において、共同で、事業の企画、調整、準備、広報、当日の運営等を行った。 成果：連携先が主体的に事業に取り組むことを通じて、日本語学習の必要性の認識が向上した。</p> <p>○実技講師及びその所属団体（ボレボレハピネス、いわきおりがみ会、福島県立あさか開成高等学校、福島警察署、喜多方消防署、福島消防署、福島市清掃管理課、もとみやクリーンセンター） 内容：取組2において、実技講師及び補助者として活動した。 成果：連携先が、直接日本語講座の実施に関わることを通じて、「生活者としての外国人のための日本語教育」への理解が深まった。事業に関わった実技講師や補助者がやさしい日本語を意識して話すようになり、日本社会から外国出身者への歩み寄りが見られた。また、連携先が外国出身者コミュニティと繋がる動きも見られた。</p> <p>○西郷村教育委員会 内容：取組3において、共同で、事業の企画、調整、準備、広報、当日の運営等を行った。 成果：連携先が主体的に事業に取り組むことを通じて、「生活者としての外国人のための日本語教育」への理解が深まった。また、連携先が積極的に事業実施後のボランティア団体立ち上げに関わり、日本語教室が開設された。</p> <p>○福島大学 内容：研究者が取組2を見学し、論文にまとめた。取組4では、日本語教授法を学んでいる学生が複数参加した。 成果：学生の「生活者としての外国人のための日本語教育」への理解が深まり、日本語教師教育の現場で活かすことに繋がった。</p> <p>○須賀川市、田村市 内容：取組1を須賀川市の共催で、取組2で田村市が参加した福島県総合防災訓練に合わせて実施した。 成果：連携先の「生活者としての外国人のための日本語教育」への理解が深まった。</p>
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	<p>事業責任者は、本事業全体を掌理し、運営委員会委員、コーディネーター等の委嘱を行うとともに、運営委員会の助言や関係機関との連携により事業を効果的かつ適切に管理し実施した。</p> <p>事業担当者は、事業責任者の命を受け、コーディネーターの指揮監督を行った。</p> <p>コーディネーターは、各取組の実施に向けて、事業企画案の作成、連携団体、指導者、講師等との連絡調整、資料準備、当日の運営等を行った。</p>
----------	--

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組の名称	既存の日本語教室における日本語講座及び日本語ボランティアスキルアップ研修会									
取組の目標	県内の日本語教室の学習者に対し、先進的な取組を行う指導者により、学習者のニーズに合った生活に役立つ日本語の学習する場を提供する。また、同時に日本語ボランティアに対して、当該指導者による研修会を行うことにより、日本語ボランティアのスキルとモチベーションの向上を図る。									
取組の内容	<p>初めてこの事業を協働で実施する3つの日本語教室を含む5つの日本語教室で実施した。学習者が希望する内容について、文化庁『生活者としての外国人』のための日本語教育の標準的なカリキュラム案について」を参考に作成した教案を使用し、県外から招へいた指導者による日本語講座を行った。</p> <p>あわせて日本語ボランティアのみを対象とし、文化庁『生活者としての外国人』のための日本語教育』に基づく研修会を実施し、指導方法等の共有や疑問点の解消等を行うことにより、日本語ボランティアのスキル及びモチベーションの向上を図り、今後の日本語教室の活動の充実・拡大に繋げた。</p> <p>○実施時期 平成30年6月～平成31年2月</p> <p>○実施回数 年5回</p> <p>○実施時間 (日本語講座)1.5時間×2回、2時間×3回=9時間 (日本語ボランティアスキルアップ研修会) 3.5時間×1回、4時間×4回=19.5時間 (日本語講座での実践研修含む)</p> <p>○実施日本語教室(※は過去2年間当該事業を実施していない教室)</p> <p>①会津若松市国際交流協会(会津若松市) ※②田村市国際交流協会(田村市) ③外国人支援ボランティアグループふれんず(相馬市) ※④須賀川多文化共生ネット(須賀川市) ※⑤伊達市国際交流協会日本語教室伊達二丁目(伊達市)</p> <p>○実施方法</p> <p>① コーディネーターは、当該事業を実施する日本語教室と、学習者が学習したいテーマ、講座の実施日時等を調整した。 ② コーディネーターは、担当する指導者と打合せを行い、講座案(講座の進め方等の方針、使用テキスト等)を作成した。 ③ 当協会は、運営委員会による助言を踏まえ、講座案を決定した。 ④ 指導者は、決定された講座案により指導を行った。 ⑤ コーディネーターは、日本語講座及び研修会を運営し、その実施結果を取りまとめ事業担当者に報告した。</p>									
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備	既存の日本語教室の日本語ボランティアは、普段行っていない『生活者としての外国人』のための日本語教育』の指導方法による日本語学習の場に参加し、さらに座学で『生活者としての外国人』のための日本語教育』を学ぶことにより、スキル及びモチベーションが向上した。その結果、日本語教室において効果的な日本語教育が行われるようになり、推進体制の強化が図られた。									
取組による日本語能力の向上	学習者は、経験豊富で能力の高い指導者からニーズに合った実用的な日本語を学習したことで、テーマに沿った日本語の習得が進んだ。また、今後の継続的な日本語学習への意欲が向上した。									
参加対象者	(日本語講座)日本語教室に通う外国出身県民(研修会)県内の日本語ボランティア	参加者数 (内 外国人数)		125人(56人) 外国人56人のうち 学習者52人 日本語ボランティア4人						
広報及び募集方法	講座を実施する各日本語教室が、その連絡網等を通じて広報及び募集を行った。研修会参加者については、福島県国際交流協会のホームページ、SNS等で、広く県民に広報し、募集した。									
開催時間数	総時間 19.5時間 (うち日本語講座 9時間) (空白地域 時間)			内訳 スキルアップ研修会 4時間×4回、3.5時間×1回 (うち日本語講座 2時間×3回、1.5時間×2回)						
主な連携・協働先	会津若松市国際交流協会、須賀川市、田村市国際交流協会、須賀川多文化共生ネット、外国人支援ボランティアグループふれんず、伊達市国際交流協会日本語教室伊達二丁目、(一社)国際日本語普及協会品田潤子、(株)インターカルト日本語学校加藤早苗、地球っクラブ2000芳賀洋子、東海日本語ネットワーク米勢治子									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	8	2		30		1			9	69
※該当する場合のみ アメリカ合衆国(2人)、メキシコ(1人)、カンボジア(1人)、ロシア(1人)、ジャマイカ(1人)										
実施内容										
上段：日本語講座(外国人学習者数、外国人ボランティア数) 下段：日本語スキルアップ研修会(外国人ボランティア数)										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年6月5日(火) 10:30～15:30 (休憩1時間)	2 4	会津若松市生涯学習総合センター	18 (8,0) 10 (0)	スキルアップ研修会『生活者としての外国人』のための日本語教育』日本語講座「防災」	日本語ボランティアを対象に講義及びワークショップを2時間実施 その後、研修会参加ボランティアと一緒に日本語講座を2時間実施	品田潤子			
2	平成30年6月16日(土) 10:30～15:30 (休憩1時間)	2 4	須賀川市役所	35 (12,1) 23 (1)	スキルアップ研修会『生活者としての外国人』のための日本語教育』日本語講座「自己紹介」	日本語ボランティアを対象に講義及びワークショップを2時間実施 その後、研修会参加ボランティアと一緒に日本語講座を2時間実施	加藤早苗			
3	平成30年6月17日(日) 10:30～15:00 (休憩1時間)	1.5 3.5	田村市常業公民館	20 (9,1) 11 (1)	スキルアップ研修会『生活者としての外国人』のための日本語教育』日本語講座「防災」	日本語ボランティアを対象に講義及びワークショップを2時間実施 その後、研修会参加ボランティアと一緒に日本語講座を1.5時間実施	加藤早苗			
4	平成30年6月24日(日) 12:30～16:30	2 4	相馬市生涯学習会館	15 (7,0) 8 (0)	スキルアップ研修会『生活者としての外国人』のための日本語教育』日本語講座「自己紹介」	日本語ボランティアを対象に講義及びワークショップを1.5時間実施 スキルアップ研修会参加参加ボランティアと一緒に日本語講座を2時間実施 その後、参加ボランティアと日本語講座の振り返りを0.5時間実施	芳賀洋子			
5	平成31年2月3日(日) 10:00～15:00 (休憩1時間)	1.5 4	伊達市立梁川小学校	37 (16,2) 21 (2)	スキルアップ研修会『生活者としての外国人』のための日本語教育』日本語講座「病院にかかる」	スキルアップ研修会参加ボランティアと一緒に日本語講座1.5時間を実施 その後、日本語ボランティアを対象に日本語講座の振り返り、講義、ワークショップを2.5時間実施	米勢治子			

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【平成30年6月5日】

1 スキルアップ研修会

受講者は以下の項目について学んだ。

- ・ 受講者は生活に密着した日本語の教え方が日本で生活する学習者に有効であること
- ・ 『生活者としての外国人』のための日本語教育の目的と目標
- ・ 外国人の社会参加を促すための日本語教育の必要性
- ・ 具体的な日本語学習の進め方

2 日本語講座

学習者は、日本語ボランティアと一緒に以下の活動をした。

- ・ さまざまな災害の言葉を覚えた。
- ・ 当協会作成のSOSカードを使って、災害発生時、情報を得たり救助を求めたりする言葉を練習した。
- ・ 緊急地震速報を聞いてどんな情報が得られたか確認した。
- ・ 自分の家の近くの避難所の名前と場所を確認した。
- ・ 災害に備えて準備しておいたほうがいいものを書き出した。



○取組事例②

【平成31年2月3日】

1 日本語講座

学習者は、日本語ボランティアと一緒に以下の活動をした。

- ・ 学習者が病気になったとき、日本語でできることを確認した。
- ・ 学習者とボランティアがペアになり、自分の体の悪いところやどのような病気にかかったことがあるかを伝え合い、その内容を発表した。
- ・ ボランティアが医者、学習者が患者になり、病院の診察室での会話のロールプレイをした。
- ・ 医者に質問したいことを日本語で質問する練習をした。
- ・ 今日の日本語学習の振り返りをした。

2 スキルアップ研修会

受講者は、ワークショップ形式で以下の活動をした。

- ・ 日本語講座の振り返りをし、ファシリテーターの指示を聞き、学習者の話を引き出すことができたかチェックした。
- ・ 『生活者としての外国人』のための日本語教育の考え方を学んだ。
- ・ 行動・体験型の活動方法について学んだ。
- ・ グループに分かれて、「標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例」を参考に活動案を考えた。
- ・ 活動案が有効なものかをチェックする項目について学んだ。



(2) 目標の達成状況・成果

1 外国人学習者に対するアンケート(計49人回答)で講座の満足度を尋ねた質問に対し、78%の人が「満足している」と回答、「まあまあ満足」と答えた人もあわせると96%になる。対話や活動を中心とした日本語学習の方法に対し高い満足度を得ることができた。

2 ボランティアに対するアンケート(計52人回答)の「研修内容を自身の日本語教育活動に活かすか」の質問に対し「活かさない」という回答はゼロであった。そのうち、研修会に2回以上参加しているボランティア20人のうち、7人が「大いに活用している」、10人が「部分的に活用している」と回答しており、研修会参加経験者の85%が既に自らの日本語教育活動に「生活者としての外国人」のための日本語教育の手法を取り入れていた。

3 同じくボランティアに対するアンケートの中で、「生活者としての外国人のための日本語教育への理解が深まったか」の質問には、「深まったと思う」(73%)と「まあまあ深まったと思う」(25%)と合わせると98%をなることから、この日本語教育への理解を深めることができた。

4 既存の日本語教室を会場に研修会を実施したため、そこで活動している多くのボランティアが参加した。うち3つの日本語教室での開催は初めてであったため、「生活者としての外国人」のための日本語教育をより多くの人に知ってもらうことができた。特に須賀川会場と伊達会場では、当該教室以外のボランティアが参加しやすい通常の教室活動とは違う曜日と時間帯で研修会を実施したため、より多くのボランティアの参加を得ることができた。

(3) 今後の改善点について

研修内容を85%のボランティアがすでに自己の日本語教育活動に取り入れていると回答しているが、どのように取り入れているかの具体的な回答を見ると、「研修旅行で」「料理教室で」などと、『生活者としての外国人』のための日本語教育をイベント的な活動をするのとボランティアが捉えている傾向が一部にみえる。イベント的な活動でも日常的な日本語教育活動でも、対話による言語習得を目指す『生活者としての外国人』のための日本語教育の本質的な理解を深めるためには、今後も研修会を継続していく必要がある。

＜取組2＞											
取組の名称	外国出身者コミュニティを対象とした日本語講座										
取組の目標	日本語を学習する機会が少ない外国出身者コミュニティを対象に、生活に役立つ実用的な日本語を学習する機会を提供する。特に、地域の日本語教室へ通っていないメンバーに対しては、日本語学習の成果を実感してもらうことで、今後の学習意欲の向上を図る。また必要に応じて学習のテーマに通じた専門講師及びその補助者を地域から招き、実技等を交えることで、学習した内容に関する理解を一層深めるとともに、地域との連携構築を図る。										
取組の内容	<p>外国出身者コミュニティが習得を希望する生活に関連するテーマに関わる日本語について、「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」を参考に、県内の日本語教室で活動する能力の高い指導者等と協議して作成した教案を使用して日本語講座を行った。</p> <p>講座を実施するに当たっては、学習テーマに関して専門的な知識を持つ実技講師とその補助者及びボランティアを地域から招き、実技等を交えた。</p> <p>○実施時期 平成30年5月～平成30年12月</p> <p>○実施回数 11回</p> <p>○実施時間 計42時間(1回あたり2～5時間)</p> <p>○実施する外国出身者コミュニティ(※は過去2年間当事業を実施していないコミュニティ)</p> <p>※①ベトナム出身者等によるコミュニティ(郡山市) ※②松木町教会に集うフィリピン出身者等(福島市) ※③タイ出身者等によるコミュニティ(郡山市) ※④田村市国際交流協会の日本語教室に通うベトナム出身者コミュニティ(田村市) ※⑤フィリピン出身者コミュニティ(白河市) ※⑥福島県日中友の会(中国出身者、喜多方市)</p> <p>⑦コムニタス福島インドネシア(インドネシア出身者、福島市)(H28) ⑧いわきフィリピンコミュニティ(フィリピン出身者、いわき市)(H28) ⑨タイ出身者等によるコミュニティ(いわき市)(H28) ⑩ハワクカマイ福島(フィリピン出身者、福島市)(H28) ⑪ベトナム出身者等によるコミュニティ(福島市)(H29)</p> <p>○実施方法</p> <p>① コーディネーターは、外国出身者コミュニティと、学習したいテーマ、講座の実施日時等を調整した。</p> <p>② コーディネーター及び指導者は、指導者等会議を開催し、講座案(講座の進め方等の方針、文化審議会国語分科会による「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」を参考に独自の工夫を加えた教案等)を作成した。</p> <p>③ 当協会は、運営委員会による助言を踏まえ、講座案を決定した。</p> <p>④ 指導者(1～2人体制)及び専門講師は、決定した講座案に基づき、チームティーチングにより日本語指導を行った。</p> <p>⑤ コーディネーターは、日本語講座を運営し、その実施結果を取りまとめて事業担当者に報告した。</p> <p>【日本語指導者等会議】</p> <p>○設置目的 コーディネーター、指導者、事業担当者等が一堂に会し、講座の教案、当日の進行等について協議するため設置する。</p> <p>○出席者 指導者、コーディネーター、事業担当者</p> <p>○開催会場・内容</p> <p>第1回(平成30年5月12日) 会場：郡山市中央公民館 内容：事業の趣旨確認、教案作成方針及び担当教案の割り振りについての協議</p> <p>第2回(平成30年7月14日) 会場：郡山市桃見台公民館 内容：各教案についての協議等</p> <p>第3回(平成31年1月19日) 会場：(公財)福島県国際交流協会 内容：実施した日本語講座の成果と課題の検討、公開予定の日本語講座進行案の協議等</p> <p>【実技指導者等会議】</p> <p>○設置目的 実技講師、指導者、コーディネーター等が一堂に会し、講座の教案、当日の進行等について協議する。</p> <p>○出席者 実技講師、指導者、コーディネーター</p> <p>○開催会場・内容</p> <p>第1回(平成30年5月12日) 会場：郡山市中央公民館 内容：5月27日実施のベトナム出身者コミュニティでの日本語講座の内容の検討、当日の役割分担の協議</p> <p>第2回(平成30年7月24日) 会場：タイレストランライタイ(日本語講座実施場所) 内容：8月1日実施のタイ出身者コミュニティでの日本語講座の内容の検討、当日の役割分担の協議</p>										
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備	外国出身者コミュニティと協働して日本語講座を行うことにより、外国出身者の日本語を自主的に学習しようとする意欲が向上し、外国出身者コミュニティ自らの日本語教室の開設や、既存の日本語教室への参加の増加等の効果を期待しているが、まだ具体的な形としては見えていない。										
取組による日本語能力の向上	学習者は、外国出身者コミュニティが希望するテーマに関する日本語を実技や実習を交えて学習することから、効果的に習得することができた。										
参加対象者	外国出身者コミュニティメンバー	参加者数 (内 外国人数)		138人(138人)							
広報及び募集方法	講座を実施する外国出身者コミュニティのキーパーソンが、メンバー等への連絡手段(SNS等)により広報及び募集を行った。										
開催時間数	総時間 42時間 (空白地域 時間)	内訳 日本語講座 5時間 × 5回 3時間 × 5回 2時間 × 1回									
主な連携・協働先	外国出身者コミュニティ、ボレボレハビネス、田村市国際交流協会、いわきおりがみ会、福島県立あさか開成高等学校、福島警察署、喜多方消防署、福島消防署、福島市清掃管理課、もとみやクリーンセンター										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	14	1	2	53		17	15		24		
※該当する場合のみ	パキスタン(5人)、アメリカ合衆国(2人)、カンボジア(1人)、フィジー(1人)、台湾(1人)、モンゴル(1人)、ロシア(1人)										

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	平成30年5月27日 (日) 10:00~15:00	5	郡山市桃見 台公民館	16	かわいいお弁当を 作る	・料理の作り方についての質問の練習 ・実技講師の指導のもとキャラ弁を作る ・レシピを読み日本語を確認する ・振り返り	菊地紀子 山内啓子	佐藤徳子、岡村比呂子、 標葉恵子、山内啓子
2	平成30年8月1日 (水) 10:00~15:00	5	タイレストラ ンライタイ	12	タイ料理を教える	・ソムタムの材料と道具を日本語で確認 ・学習者がリーダーからソムタムの作り方を 聞き、それをボランティアに伝える ・ソムタムの作り方をワークシートに書き出 す ・振り返り	谷明子 吉田千鶴子	ボランティア7人
3	平成30年9月2日 (日) 8:30~14:20 (休憩50分)	5	田村市総合 運動公園	11	防災	・福島県総合防災訓練に参加 ・緊急地震速報を視聴し、地震発生時の行 動を話し合う ・振り返り	谷明子 奥秋和夫	ボランティア8人
4	平成30年9月19日 (水) 13:00~16:00	3	いわき市生 涯学習プラ ザ	7	折り紙の手順を教 える	・折り方を習い作品を作る ・自分が作った作品の折り方を別の学習者 に日本語で説明する ・振り返り	永島恭子 鈴木智子	鈴木智子、小澤典子、 鈴木和子、新谷公子
5	平成30年9月24日 (月・祝) 10:00~15:00	5	マイタウン 白河	3	日本料理を習う	・材料、調理器具の名前の確認 ・実技講師の指導のもと、飾り巻を作る ・飾り巻の作り方をワークシートに書く ・振り返り	佐々木千賀子 目時千夏	柳田隼人、三本木麻湖、 市村璃々子、目時千夏
6	平成30年10月6日 (土) 13:00~16:00	3	いわき労働 福祉会館	9	防災	・防災のビデオを視聴し、地震発生時の行 動を話し合う ・自宅から避難所までの経路での危険を確認 ・振り返り	菊地紀子	ボランティア2人
7	平成30年10月14日 (日) 10:00~15:00	5	福島市市民 会館	20	ベトナム料理を教 える	・揚げ春巻きの材料と道具を日本語で確認 ・学習者がリーダーから揚げ春巻きの作り 方を聞き、それをボランティアに伝える ・揚げ春巻きの作り方をワークシートに書き 出す ・振り返り	佐々木千賀子 石橋英子	ボランティア16人
8	平成30年10月28日 (日) 10:30~12:30	2	カトリック松 木町教会	13	防犯	・犯罪についてグループで話し合う ・警察官の防犯対策の講話を聴く ・グループに分かれて110番通報の練習 ・警察官に防犯に刺して質問する ・振り返り	奥秋和夫 警察官3人	ボランティア1人
9	平成30年11月18日 (日) 13:30~16:30	3	関柴町憩い の広場	19	心肺蘇生法と119 番通報	・自分の住所を正確に伝える練習 ・救急救命士から心肺蘇生法を習う ・119番通報訓練 ・振り返り	吉田千鶴子 遠藤清志	ボランティア3人
10	平成30年11月25日 (日) 13:30~16:30	3	福島県国際 交流協会	11	心肺蘇生法と119 番通報	・けがや病気の状況を正確に伝える練習 ・119番通報訓練 ・救急救命士から心肺蘇生法を習う ・振り返り	菊地紀子 佐々木千賀子 野矢優希 久保皓太郎	
11	平成30年12月9日 (日) 13:30~16:30	3	二本松市市 民センター	17	ごみの出し方	・ゴミの出し方について話し合う。 ・ゴミの分別に関する日本語を確認 ・自分たちがすむ自治体のルールに従って ゴミを分別 ・自治体職員からアドバイスを受けて再分別 ・振り返り	佐々木千賀子 河野素彦 渡辺宏	ボランティア1人

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【平成30年10月14日】

- ・ 学習者とボランティアがペアになり自己紹介をし、同じ調理台を使う他のペアに自分のペアを紹介した。
- ・ 日本語講師が「これは何ですか?」と聞き、ベトナム人学習者が答えるという方法で、ベトナム料理揚げ春巻き材料の名前を、一つずつ確認した。
- ・ ベトナム料理のデモンストレーターが、料理の作り方を細かく区切って説明し、日本語講師は必要な日本語を補足し、学習者は作り方を日本語で覚え、調理台に戻り自分のペアとなっているボランティアに日本語で作り方を教えた。その作業を繰り返し、料理を完成させた。
- ・ 学習者とボランティアは、ベトナム料理について話しながら作った料理を試食した。
- ・ 学習者は、午前中の活動を振り返り、揚げ春巻きの作り方をワークシートに書き出し、それを発表した。



○取組事例②

【平成30年11月25日】

- ・ 学習者はけがや急病の状況のイラストを見て、状況を説明する日本語を確認した。
- ・ 自分の住所を日本語で発音できるように練習した後、119番通報に必要な日本語を練習した。
- ・ 代表者が、実際に福島消防署の通信司令部に119番通報訓練を行い、実技講師から通報の内容について講評を受けた。
- ・ 救急救命士から心肺蘇生法の実習を受けた。
- ・ 今日の学習を振り返り、覚えた文を書き、発表した。



(2) 目標の達成状況・成果

- 1 7つの講座で実技講師のべ11人、3つの講座で実技講師補助者のべ9人、6つの講座でボランティアのべ37人の協力が得られ、その数は計57人になった。日ごろ外国出身者との接点が少ない地域の方々へ外国出身者を身近に感じてもらい、また日本語でもコミュニケーションが取れることを実感してもらえた。
- 2 学習者が希望する体験を通じて日本語を学ぶことにより、学習者の学習意欲が高まり、学習効果が上がった。特に、母国料理の作り方について日本語を使って日本人に教えるという活動は、学習者に大きな達成感をもたらした。
- 3 ボランティアに対し外国出身者との対話の場を提供することができ、地域住民の外国人に対する日本語教育への理解の向上に繋がった。
- 4 「安全に暮らす」の講座では、実技講師として依頼した警察官が、やさしい日本語で話すということを強く意識してくれた。今後、警察官の外国出身者への声掛けなどにいい影響が出ることが期待される。
- 5 日本語講座の実施に当たって、毎回日本語講師が工夫を凝らした教材や活動を準備してくれた。その成果として、特に3年間で複数回実施したテーマの日本語講座の進行案6つについて、後日協会ホームページで公開することとした。

(3) 今後の改善点について

- 1 一回限りの日本語講座として実施したことから、学習者にとってはイベントと捉えられ、継続的な日本語学習につながったか判断が難しい。講座実施後のアンケートでも、ほとんどの学習者が日本語の学習をもっとしたいと答えていることから、それを実際の日本語学習に繋ぐ具体的方策を考える必要がある。
- 2 外国出身者が既存の日本語教室に参加するように勤めるだけでなく、自分たちコミュニティのニーズに合った日本語学習の場を設定できるようにサポートしていく必要がある。
- 3 防災、防犯など身近な話題を通して、町内会などより多くの地域の方々へ外国出身者と「やさしい日本語」でコミュニケーションがとれる事業をさまざまな形で実施していく必要がある。

＜取組3＞											
取組の名称	新規日本語教室開設に向けたトライアル日本語講座及び日本語ボランティア養成講座										
取組の目標	日本語を学ぶ機会が少ない外国出身者に、生活に役立つ日本語を学ぶ場を提供し、日本語学習への意欲を喚起するとともに、地域の日本語ボランティア希望者に、日本語指導方法研修の機会を提供し、日本語指導者を育成する。										
取組の内容	<p>日本語ボランティア希望者に対する養成講座は、その効果を高めるためトライアル日本語講座と連動したものとした。</p> <p>○実施時期 平成30年6月10日～平成30年7月8日</p> <p>○実施回数 7回</p> <p>○実施時間 (日本語講座) のべ12.5時間 (養成講座) のべ 21.5時間(日本語講座での実践研修含む)</p> <p>○実施方法 ① コーディネーターは、西郷村教育委員会と、学習したいテーマ、講座の実施日時等を調整した。 ② コーディネーター及び指導者は、指導者等会議を開催し、講座案(講座の進め方等の方針、文化審議会国語分科会による「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」を参考に独自の工夫を加えた教案等)を作成した。 ③ 当協会は、運営委員会による助言を踏まえ、講座案を決定した。 ④ 指導者(2名体制)は、決定された講座案に基づき、チームティーチングにより日本語指導を行った。 ⑤ コーディネーターは、日本語講座を運営し、その実施結果を取りまとめて事業担当者に報告した。 ※指導者等会議(取組2と同じ)</p>										
<input checked="" type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	西郷村教育委員会は、当協会と日本語講座及び日本語ボランティア養成講座を共同で運営することにより、外国出身者のニーズやボランティア人材を把握することが可能となり、日本語教室の開設に繋がった。									
取組による体制整備	この取組で実施したボランティア養成講座の受講者の有志が、新規日本語教室「にこごう地球ひろば」を開設した。これにより継続的な学習の場を提供することができた。 また、生活に役立つ実用的な日本語の学習により、学習者は学習効果をすぐに実感することができて、日本語学習の意欲が高まった。 日本語ボランティアも学んだことを活かす活動の場が提供され、日本語ボランティア活動の意欲を持続することができた。										
取組による日本語能力の向上	これまで白河市等の近隣市町村に通っていた外国出身者の負担を減らし、利便性が高く継続的な学習の場を提供することができた。 また、生活に役立つ実用的な日本語の学習により学習効果をすぐに実感することが可能となり、学習者の学習意欲を持続・向上させることができた。										
参加対象者	(日本語講座) 西郷村及び近隣市町村に居住する日本語学習を希望する外国出身者 (ボランティア養成講座) 日本語ボランティア希望者	参加者数 (内 外国人数)				138人(56人) 外国人56人のうち 学習者54人 日本語ボランティア2人					
広報及び募集方法	当協会及び西郷村のHPへの掲載、西郷村の広報紙、西郷村教育委員会による広報・募集をした。										
開催時間数	総時間 21.5時間 (うち日本語講座 12.5時間) (空白地域 12.5時間)				内訳 ボランティア養成講座 4.5時間×1回、3.5時間×1回、3時間×2回、2.5時間×3回 (うち日本語講座 2時間×4回、1.5時間×3回)						
主な連携・協働先	西郷村教育委員会										
受講者の出身(ルーツ)・国内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	3			36		1			7	82	
※該当する場合のみ ジャマイカ(5人)、イギリス(4人)											
実施内容 上段：日本語講座(外国人学習者数、外国人ボランティア数) 下段：日本語ボランティア養成講座(外国人ボランティア数)											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	平成30年6月10日(日) 13:30～15:30 10:30～16:30 (休憩1.5時間)	2 4.5	西郷村文化センター	29 (13,0) 16 (0)	自己紹介	養成講座：日本語ボランティアの役割、日本語講座の振り返り等 日本語講座：自己紹介、名刺交換	永島恭子 石橋英子				
2	平成30年6月13日(水) 19:00～20:30 18:30～21:00	1.5 2.5	西郷村文化センター	23 (9,0) 14 (0)	他己紹介	養成講座：日本語講座にボランティアとして参加するための準備、振り返り等 日本語講座：他己紹介、伝聞の表現	永島恭子 石橋英子				
3	平成30年6月17日(日) 13:30～15:30 13:00～16:00	2 3	西郷村文化センター	18 (8,1) 10 (1)	図書館で本を借りる	養成講座：日本語講座にボランティアとして参加するための準備、振り返り等 日本語講座：図書館で本を借りるときの表現	永島恭子 石橋英子				
4	平成30年6月20日(水) 19:00～20:30 18:30～21:00	1.5 2.5	西郷村文化センター	16 (5,0) 11 (0)	体にいいオリジナルスムージーを考える	養成講座：日本語講座にボランティアとして参加するための準備、振り返り等 日本語講座：体にいい、悪いという表現、オリジナルスムージーの発表	永島恭子 石橋英子				
5	平成30年7月1日(日) 13:30～15:30 13:00～16:00	2 3	西郷村文化センター	14 (3,1) 11 (1)	まるごと西郷館でインタビュー	養成講座：日本語講座にボランティアとして参加するための準備、振り返り等 日本語講座：インタビューしてお勧めを尋ねる表現	永島恭子 石橋英子				
6	平成30年7月4日(水) 19:00～20:30 18:30～21:00	1.5 2.5	西郷村文化センター	20 (9,0) 11 (0)	短冊に願いごとを書く	養成講座：日本語講座にボランティアとして参加するための準備、振り返り等 日本語講座：希望や願望を伝える表現	永島恭子 石橋英子				
7	平成30年7月8日(日) 13:30～15:30 13:00～17:00 (休憩0.5時間)	2 3.5	西郷村文化センター	18 (7,0) 11 (0)	アルバムを作り思い出を共有する	養成講座：日本語講座にボランティアとして参加するための準備、振り返り、日本語教室立ち上げのための協議 日本語講座：思い出を発表する	永島恭子 石橋英子				

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 平成30年6月10日】

ボランティア養成講座(日本語講座の前半と後半で実施)

受講者は以下の項目を学んだ。

- (前半)
- ・ 地域日本語教室と日本語学校の違いについて
 - ・ 福島県における日本語指導対象者とは
 - ・ 地域日本語教室における日本語教育と学校の英語教育との違い
 - ・ 日本語ボランティアの役割について
 - ・ 自分が実施したい地域日本語教室のアウトラインを考える
 - ・ 本日の教室活動について
- (後半)
- ・ 日本語支援ボランティアを行う上での心構えについて

日本語講座

学習者は日本語ボランティアと以下の活動をした。

- ・ 「よろしく願います。」とあいさつをした。
- ・ 自己紹介ゲーム
- ・ 名刺カードを作り、全員で名刺交換し自己紹介をした。
- ・ 学習者が前に出て自己紹介のスピーチをした。



○取組事例②

【第7回 平成30年7月8日】

ボランティア養成講座(日本語講座の前半と後半で実施)

受講者は以下の項目を学んだ。

- (前半)
- ・ 本日の日本語講座の趣旨と流れの説明
 - ・ 7回の日本語講座の活動とそれぞれの日本語の活動の解説
- (後半)
- ・ 今後、日本語教室でどんな活動ができそうかを書き出した。(ブレインストーミング)
 - ・ 書き出した活動をどうしたら日本語学習につながるか考えた。
 - ・ 受講者から出たアイデアに講師がアドバイスした。
 - ・ 日本語教室立ち上げに向けての説明(西郷村教育委員会から)

日本語講座

学習者は日本語ボランティアと一緒に以下の活動をした。

- ・ 学習者がボランティアの名前を呼んで名札を配り、「よろしく願います」とあいさつを交わした。
- ・ 7回の日本語教室で何をしたら、学習者が振り返った。
- ・ 会場のある施設内の写真を撮り、それをプリントアウトして、思い出のアルバムを作った。
- ・ 学習者はボランティアに自分が作ったアルバムの内容を3回人を替えて説明した。



(2) 目標の達成状況・成果

取組終了の翌月8月29日には、日本語教室「にしごう地球ひろば」が立ち上がり、現在、ボランティア7名と新たに加わった学習者も含めて計4名程度で活動している。これは、協働で事業を行った西郷村教育委員会が、当初から日本語教室を立ち上げるという考えで、積極的に当該事業に取り組んだ結果であり、会場の提供や広報などサポートを継続している。

(3) 今後の改善点について

西郷村教育委員会の情報によると、現在、日本語ボランティア数に対し学習者の数が少ない状況にある。学習者が少ないことで日本語ボランティアのモチベーションが低下しないよう、学習者の掘り起こしなど継続した活動につなげることが今後の課題である。

＜取組4＞											
取組の名称		日本語教育活動成果発表セミナー									
取組の目標		平成28年度から平成30年度までの3年にわたる取組の成果を総括し、「生活者としての外国人の日本語教育」の意義について広く周知するとともに、その成果を県内の日本語教育に携わっているボランティア、一般県民等と共有し、県内の日本語教育の質の向上と重要性について広く理解を図る。									
取組の内容		<p>本事業運営委員の米勢治子さんによる「生活者としての外国人の日本語教育」について基調講演、過去3年間の取組1、2、3の成果報告した。さらに、「やさしい日本語ワークショップ」を実施した。</p> <p>○ 実施時期 平成31年2月2日(土)13:00～16:00</p> <p>○ 実施回数 1回</p> <p>○ 実施時間 3時間</p> <p>○ 内容 1 基調講演 テーマ：外国人とともに生きる～「生活者としての外国人」のための日本語教育 講師：米勢治子(東海日本語ネットワーク)</p> <p>2 3年間の事業の成果報告</p> <p>3 ワークショップ テーマ：やさしい日本語で外国人とコミュニケーション ファシリテーター：米勢治子 アシスタント：外国出身者10名、日本語補助者5名</p>									
<input type="checkbox"/> 空白地域を含む場合、空白地域での活動											
取組による体制整備		セミナーの開催により、外国出身者の日本語学習へのさらなる理解、日本語ボランティア同士のネットワーク構築、それによる地域における日本語学習の環境づくり等が進み、ひいては県全体の日本語教育体制の充実・強化に繋がった。 なお、外国出身者が日常生活をおくる上でどのような日本語を学びたいと考えているのか、どのように地域住民と交流したいと考えているのか等への理解も深まることで、今後の地域での交流がより円滑になることと期待している。									
取組による日本語能力の向上		特になし									
参加対象者		日本語教育に携わっている日本語ボランティア及びボランティア希望者、一般県民、日本語学習に関心のある外国出身者等				参加者数 (内 外国人数)		48人(7人)			
広報及び募集方法		当協会ホームページへの掲載、当協会メールマガジン・SNS等による広報、県内の日本語教室を対象とするメールマガジンによる広報、印刷物の配付、報道機関への投込み等により、広報及び募集を行った。									
開催時間数		総時間 3時間 (空白地域 時間)				内訳 3時間 × 1回					
主な連携・協働先		市町村国際交流協会、日本語教室、外国出身者コミュニティ、福島大学									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
※該当する場合のみ		5								2	41
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	平成31年2月2日 (土) 13:00～16:00	3	(公財)福島 県国際交流 協会	48	もつと外国人と話 そう!	・基調講演「外国人とともに生きる～『生活者としての外国人』のための日本語教育」 ・3年間の事業の成果報告 ・ワークショップ「やさしい日本語で外国人とコミュニケーション」	米勢治子	ワークショップ補助者：菊池紀子、佐々木千賀子、谷明子、吉田千鶴子、奥秋和夫、永島恭子、石橋英子 アシスタント(外国出身者)：ペンスレイニッチ、ウラオベード、アハマドズベール、杉上絵莉、ワタナベタンチャノック、ナスルディン、ファジャルマヌルル、エレナミハイロフ、ピクラムニングレク、ウラナビード			

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【平成31年2月2日】

- 1 基調講演 テーマ：外国人とともに生きる～「生活者としての外国人」のための日本語教育
講師：米勢治子(東海日本語ネットワーク)
- 2 3年間の事業の成果報告
- 3 ワークショップ テーマ：やさしい日本語で外国人とコミュニケーション
ファシリテーター：米勢治子
アシスタント：外国出身者10名、日本語補助者5名



(2) 目標の達成状況・成果

- 1 セミナー参加者は目標数25名の倍近い参加者があり、うち15名は、これまで日本語ボランティア活動に関わったことのない参加者だったことから、「『生活としての外国人』のための日本語教育」への理解者のすそ野を拡大することができた。チラシに「もっと外国人と話そう」という言葉を前面に打ち出したことが皆さんの目に留まり、参加者数の増加につながったと分析している。このことから、外国人とのコミュニケーションに関心を寄せている人は潜在的に多くいることがわかった。
- 2 ワークショップを通じて、参加者に対し外国出身者と「やさしい日本語」を使ってコミュニケーションを取れることを体験的に知ってもらうことができた。これにより、今後参加者の方々が外国出身者とのコミュニケーションにおいて、「言葉の壁」が幾分でも低く感じてもらえ、交流がより一層図れるようになることが期待できる。
- 3 一方、日本語があまり得意ではない外国出身者10名にアシスタントとしてワークショップに参加してもらった。彼らにとって、普段話したことのない日本人と日本語で交流するという経験は、今後、日本語学習のモチベーションにつながると期待できる。
- 4 参加者に対するアンケートの中の「『生活者としての外国人』のための日本語教育への理解が深まったか」について、68%が「深まった」と回答しており、一定程度この教育への理解を深めることができた。
- 5 平成29年度の「セミナー参加者を地域の日本語教室の活動に繋げる」という課題を解決するためにセミナー終了後、任意参加で日本語ボランティアを希望する参加者を日本語教室と引き合わせる機会を設けたところ、4名が参加した。うち1名がすでに日本語教室で活動を始めている。

(3) 今後の改善点について

「『生活としての外国人』のための日本語教育」は、日本語でのコミュニケーションを通じて、地域住民と外国人が共生するために歩み寄る取り組みと考えられる。今年4月から外国人労働者受入の拡大が始まる中、このような一般向けの取り組みは今後も継続して実施していく必要がある。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

広い県土を有する本県では、外国出身者が県内各地に散在して暮らしていることから、外国出身者が、日常生活をする上で必要かつすぐに使える実用的な日本語能力を習得できるようにするためには、県内各地において日本語が学べる環境づくりが必要である。

そこで、平成28年度、平成29年度と文化庁からの委託を受け、学習者の実態や要望に合わせた独自の教案を作り、県内各地の日本語教室や外国出身者コミュニティと協働してのべ30か所に及ぶ日本語講座を実施するとともに、日本語ボランティアを対象としたスキルアップ研修会を実施した。また、日本語教室空白地域においては、日本語教室開設に向けたトライアル日本語講習会を開催し、さらには、これらの事業の成果を広く県民と共有するためにセミナーを開催した。

その結果、日本語講座に参加したほとんどの外国出身者は、生活していく上で必要となる日本語の学習を継続して行う必要性を、一方、研修会に参加した日本語ボランティアは、日本語教室活動に関するスキル及びモチベーションの向上を認識した。また、日本語教室空白地域においては、講習会を契機に平成28年度には伊達市に「伊達ニティ」が、平成29年度には白河市に「フロムココ白河」という団体が新たに立ち上がり、それぞれが日本語教室を開設した。さらに平成28年度はセミナーの開催を通じて、県民と事業成果について共有することができ、平成29年度においても、この2月に同様のセミナーを開催する。

また、特に平成29年度の外国出身者コミュニティを対象とした講座においては、地域の様々な団体等と連携し、実技講師及びその補助者として地域住民が直に日本語講座に携わる機会を提供したことにより、参加した地域住民が外国出身者に対する日本語教育の重要性を実感し、地域住民自身が外国出身者とやさしい日本語でコミュニケーションを図ろうとする意識変容に繋がった。

しかしながら、本県全体から見れば、これらの成果は限定的で県全体には波及しているとは言い難い状況にあることから、当事業の最終年度となる平成30年度においては、平成28年度及び平成29年度の事業で蓄積したノウハウを生かし、新たな地域において新たな団体と連携し、同様の取組を引き続き実施することで、福島県全体における「生活者としての外国人」に対する日本語教育体制のさらなる充実・強化を図ることとする。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

1 当事業に参加した地域住民は、取組1のボランティア数のべ74名、取組2の実技講師等のべ58名、取組3のボランティアは18名、さらに取組4の参加者48名と合計198名となり、地域住民が日本語教育について理解を深める機会を提供することができた。

2 既存の日本語教室における体制整備においては、新たな3つの日本語教室で、外国出身者コミュニティにおける体制整備においては、新たな7つのコミュニティで事業を実施することができ、「生活者としての外国人のための教育」について知ってもらおうと言う点ではすそ野拡大には繋がったものと判断する。

3 西郷村での新規日本語教室の立ち上げに関しては、地元の西郷村教育委員会の積極的な協力により、新たな日本語教室を立ち上げることができた。

4 当事業に関わった県内の日本語講師の皆さんが作成したオリジナルの教案、特に何度か実施してある程度精査されている6つの教案を取りまとめ、年度内に当協会HPで公開できるようになった。これにより、この教育についての理解が一層広がることが期待できる。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果等

当該事業の推進においては、当協会単独ではなく、様々な関係団体と協働して実施した。具体的には、取組1は5つの日本語教室と1つの市、取組2は11の外国出身者コミュニティと警察署、消防署をはじめとした8つの地域の様々な機関・団体、取組3は西郷村教育委員会、取組4は福島大学である。このような協働事業を通じて、地域の様々な機関・団体は、外国人に対する生活者としての日本語教育についての理解を深める機会となったと考えている。今後も、この取組を契機として外国出身者コミュニティと関係した地域の関係・団体で新たな取組がなされるよう、協会や行政がより積極的な情報発信などをしていく必要がある。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

取組1の参加者は、協働した日本語教室に参加している学習者、ボランティアのほかに、当協会のSNSや各日本語教室へのチラシの配布などで広く参加者を募集した。

取組2の参加者は、協働した外国出身者コミュニティのネットワークで学習者を募集し、ボランティアは当協会のSNSやホームページで広報し募集した。

取組3の参加者は、協働した西郷村教育委員会が村内全戸にチラシを回覧したほか、近隣の市町村にも広報をした。当協会のホームページ及びSNSで広報した。

取組4の日本語教育成果発表セミナーの広報では、チラシに「もっと外国人と話そう」という言葉を前面に打ち出した。このことが皆さんの目に留まり、目標数25名の倍近い参加者があり、うち15名は、これまで日本語ボランティア活動に関わったことのない参加者だった。「『生活者としての外国人』のための日本語教育」への理解者のすそ野を拡大することができた。

今後、取組2で実施した日本語講座の6進学案を、当協会ホームページで公開することで事業の成果を広く共有する。

(5) 改善点、今後の課題について

1 既存の日本語教室における体制整備においては、新たな3つの日本語教室で、外国出身者コミュニティにおける体制整備においては、新たな7つのコミュニティで事業を実施することができ、「生活者としての外国人のための教育」について知ってもらおうと言う点ではすそ野拡大には繋がったものと判断する。しかしながら、1回限りの取組が多かったことから、体制整備まで進んだとは言いがたく、以前実施した教室やコミュニティが、継続した取り組みを実施していくことが課題である。

2 地域の様々な機関・団体と協働で事業を実施して、それらの機関・団体が外国人に対する生活者としての日本語教育についての理解を深める機会となったと考えているが、今後も、この事業を契機として外国出身者コミュニティと関係した地域の関係・団体で新たな取組がなされるよう、協会や行政がより積極的な情報発信などをしていく必要がある。

3 当事業に数回参加した実績のある日本語ボランティアに対するアンケート結果から、85%が「大いに」または「部分的に」この教育を取り入れていると回答しているものの、その具体的な内容を聞くと、「料理教室で」「旅行で」とイベントを挙げており、普段の日本語教室での活動に「『生活者としての外国人』のための日本語教育」が十分に取り入れられていないことが伺われる。これらのことから、今後も継続して「『生活者としての外国人』のための日本語教育」への本質的な理解を深める取組を実施していくことが課題である。

(6) その他参考資料

- ・日本語ボランティアスキルアップ研修会 チラシ(6月開催)
- ・外国人のための日本語教室及び日本語教室ボランティア養成講座 チラシ
- ・ボランティア募集(ベトナム料理/タイ料理) チラシ
- ・日本語教育活動成果発表セミナー チラシ
- ・日本語ボランティアスキルアップ研修会 チラシ(2月開催)